学校番号	1009

令和３年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	書Ⅱ　（東京書籍）						
副教材等	自主教材プリント						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰで高められた書写能力を基盤に、古典の書の臨書や創作を通して、幅広い書の表現理論と技法を修得しましょう。
・線質の変化がもたらす書の印象の違いを創作に生かすことで、書に関する興味・関心を深め個性豊かな書の能力を伸ばしていきましょう。
・書の歴史や文化の理解を深め、書の美を分析的・総合的に鑑賞することによって、主体的な学習態度を育てていきます。

２　学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書の文化や伝統についての理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書が身近なものであることを実感し、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさや表現を感取し、感性を働かせながら、主体的に表現を工夫している。	創造的な諸表現をするために、基礎的な能力を生かし、また使用する用具用材の特性を理解し活用できるよう様々な表現技術の習得をめざす。	日常の書や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを書の表現意図を、創造的に味わって鑑賞する態度を育む。
評価方法	作品 レポート	作品 レポート	作品	鑑賞レポート ワークシート 発表

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4・5・6月中旬	書体の変遷	漢字の書による学習 (古典の臨書) ・篆書 ・隷書 ・篆、隷書による創作	○			○	a:篆書・隷書の用筆法により生じる線質の違いを考えながら臨書に取り組もうとしている。 b: 書体の変遷を「造形美」と「用筆法」の両面から理解し表現を工夫している。 c:篆書・隷書の特徴や基本を身に付け表現している。 d: 臨書での学習を基に、文字構成、墨量、墨色など様々な工夫をしている。	観察 レポート 作品
6中旬・7月	篆刻	篆書を用いて姓名印を制作する	○	○	○	○	a:篆刻関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。 b:表現の効果を理解し、意図的に構想を工夫している。 c: 篆刻に必要な技能を習得し、個性的に表現している。 d:様々な印影を鑑賞し、そのよさや美しさを理解している。	観察 作品 レポート
8月	課題・硬筆	楷書硬筆プリント	○		○		a:国語科書写の基礎的な能力を身に付け、主体的に取り組もうとしている。 b:国語科書写で身に付けた基礎的な能力を生かして表現を工夫している。 c: 均整のとれた文字構成を覚え表現している。 d:日常生活の硬筆の書の効用について理解している。	作品

9 ・ 10 ・ 11 月 中 旬	漢字の書	古典による臨書学習 ・草書 ・行書 ・楷書	○	○	○	○	a: 各書体の特徴を理解し、字形の構成や全体の構成を工夫しようとしている。 b: 古典の持つ伝統的な美を感受し、書風を捉え表現を構想し工夫している。 c:各書体の基本点画、筆脈を呼吸法の観点から理解し用筆方法を表現することができる。 d:表現方法や書風を分析し生かしている。	観察 作品 レポート
11 月 中 旬 ・ 12 月 ・ 1 月 中 旬	仮名の書	①高野切第一種 ②本阿弥切本古今和歌集 ③関戸本古今和歌集 ④高野切第二種	○	○	○	○	a: 行書きを基に散らし書きの効果を臨書を通して積極的に表現技法を高めようとしている。 b:古典に基づく表現を工夫している。 c: 仮名の線質や字形や用筆、運筆などの筆使いを身に付け表現している。 d:仮名の書の美を構成する要素を理解している。	観察 作品 レポート
1中旬・2・3月	漢字仮名交じりの書	線質による表現 構成による表現 表装 鑑賞会	○	○	○	○	a:各古典により学んだ表現方法を積極的に漢字仮名交じりの書に生かそうとしている。 b: 感興に応じて言葉や構成などの表現方法を選び、用具や用材などを工夫している。 c:創作のねらいを達成するために必要な表現や構成を技能を生かして表現している。 d: 書道Ⅰの学習成果の上に立って線質、墨の濃淡、墨の潤渇、用紙の工夫、全体構成などを工夫できるよう生かしている。	観察 作品 鑑賞レポート ワークシート 発表

1 ・ 2 ・ 3 月	漢字仮名交じりの書	表現の工夫 構成について 表装･パネル作品 鑑賞会	○	○		○	a:漢字仮名交じりの書の創造的な活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。 b:運筆のリズム、線質、墨の濃淡、墨の潤滑、筆圧、文字の大小、用紙の工夫、全体構成などを工夫して自分の言葉のイメージを表現させようとしている。 c:漢字の書と仮名の書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。 d:互いの作品を鑑賞し、そのよさや美しさや表現技法を理解している。	観察 作品 レポート ワークシート 発表

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。